

第 2 学 年
文 系

2025年度 国語科 年間授業計画表						
科目名	文学国語		単位数	2	学年・類型	2年
担当者		使用教科書	筑摩書房『文国708 文学国語』		副教材	
科目の目標 (指導目標)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。					
②思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。					
評 価 方 法						
授業態度・クラス内発表・課題・定期試験						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	随想・評論（一）	第1章 ことばから広がる世界 「情報の彫刻」	① 紙の書籍の魅力がどのような点にあるか、筆者の考えを読み取る。 ② 電子メディアの普及により文学作品を読む行為にどのような変化が生じてくるか、話し合う。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	随想・評論（二）	第3章 背後にあるメッセージ 「ラムネ氏のこと」	① 本文中のたとえ話に隠れたメッセージを読み取る。 ② 筆者の考える「一生の業」とはどのようなものか、話し合う。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
1 学 期 後 半	小説（一）	第2章 物語との出会い 『山月記』	① フィクションの世界に際立つ人間の本質を読み取る。 ② 漢文訓読調の文体のリズムを味わう。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
	随想・評論（三）	第4章 現実を揺さぶる想像力 「記号論と生のリアリティ」	① 「記号学」についての筆者の考え方を理解する。 ② 文学的な表現が読み手にもたらす効果を考える。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	詩歌（一）	第8章 調べとリズム 短歌	② それぞれの短歌の表現上の技法や、その内容について読解する。 ② 「死にたまふ母」連作について、「母」を表現するのにどのようなことばや枕詞が使われているか、説明する。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			

2 学 期 前 半	随想・評論（四）	第6章 過去との対話 「死者の声を運ぶ小舟」	① 「文学の力」について、筆者の主張を読み取る。 ② 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ③ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	随想・評論（五）	第7章 世界観を築く 「建築論ノート」	② 比喩とレトリックを駆使して展開された論理の流れをつかむ。 ② 比喩やレトリックの効果について話し合う。 ③ 本文を参考にして建築と人間について自分の考えをまとめ、400字程度で書く。 ④ 人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
2 学 期 後 半	小説（二）	第5章 自己と向き合う 『こころ』	① 登場人物の関係性を理解し、各人の心理の揺れ動きを読み取る。 ② 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ③ 人間性の本質に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
3 学 期	詩歌（二）	第8章 調べとリズム 「永訣の朝」	① 表現や内容について読み解く。 ② 構成・リズムに注意して朗読する。 ③ 我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ④ 人間に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。	○	○	○
	随想・評論（六）	第9章 思考の道筋をたどる 「化物の進化」	① 筆者の主張は何を意味するか、読み解く。 ② 身の周りの自然現象を科学的に捉える視点を身につける。 ③ 人間と自然に対するものの見方、感じ方、考え方を深める。			
留意事項						

2025年度		国語科		年間授業計画表			
科目名	古典探究		単位数	4	学年・類型	2年文系	
担当者		使用教科書	古典探究 古文編・漢文編(第一学習社)			副教材	
科目の目標 (指導目標)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨							
①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。						
②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。						
③主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。						
評 価 方 法							
授業態度・発問評価・発表・学習課題集の提出・定期テスト							
学 習 指 導 計 画							
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点			
				①	②	③	
1学期前半	説話(一)	古今著聞集 「小式部内侍が大江山の歌のこと」	①著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 ②説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。 ③文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辞について理解を深める。				
		方丈記 「ゆく河の流れ」	①鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ②和漢混雑文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。				
	随筆(一)	徒然草 「世に語り伝ふること」	①争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 ②さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○	○	○	
		故事・寓話	「推敲」 「知音」	①現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ②故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。			

1 学 期 後 半	随筆（一）	徒然草 「よるづのことは、月見るにこそ」 「あだしの露消ゆるときなく」	①争乱と政変の時代を生きた作者の、世の諸事象に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 ②さまざまな文体を駆使した随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。			
	随筆（二）	枕草子 「すさまじきもの」 「二月つごもりごろに」	①内容・形態によって三つに大別される章段のそれぞれを読んで、文章に表れたものの見方や考え方を理解する。 ②自由な文体の随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③随筆に表れたものの見方・考え方・美意識を理解し、積極的に自分の考えを伝え合おうとしている。	○	○	○
	史伝（一）	史記「鴻門の会」	①登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。 ②史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ④我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ⑤各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。			
2 学 期 前 半	物語（二）	源氏物語「桐壺」	①歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ②長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。			
	史伝（二）	史記「四面楚歌」	①追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ②史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ④史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ⑤語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ⑥我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。	○	○	○
	漢詩	碩中作	①漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ②漢詩の特徴について理解を深める。 ③漢詩の構成・展開のしかたについて理解を深める。 ④漢詩に表れる表現の特色について理解を深める。			
2 学 期 後 半	物語（二）	源氏物語「若紫」	①歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ②長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。			
	日記（二）	更級日記「源氏の五十四巻」	①晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる。 ②日記文学という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	○	○	○
	名家の文章	雑説 黔之驢	①本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩にこめられた作者のものの考え方について理解を深める。 ②論説という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ④動物に託して描いた、作者の社会に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深			

			める。 ⑤作品の成立背景や他作品との関係をふまえて内容を解釈する。 ⑥論説を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ⑦積極的に論説を読み、作者が動物の話にこめた教訓を捉えようとしている。			
3 学 期	物語（二）	大鏡「花山天皇の出家」 「弓争い」	①歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。 ②歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。			
	物語（三）	平家物語「忠則の都落ち」	①軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。 ②軍記物語という文章の種類や漢混交文という古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③軍記物語を思想的背景・歴史的背景に注意しながら読み、積極的に自分の考えを広げたり深めたりする。	○	○	○
	諸家の思想	孟子「何必曰利」 「性善」 韓非子「侵官之害」	①『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』を読み、古代中国思想について理解する。 ②思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ③書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ④思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ⑤我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ⑥訓読のきまりについて理解を深める。 ⑦儒家と対立する法家の古典である『韓非子』を読み、古代中国思想について理解する。			
留意事項						

2025年度 地歴公民科				年間授業計画表		
科目名	歴史総合		単位数	2	学年・類型	2年文系
担当者		使用教科書	歴史総合 近代から現代へ（山川）		副教材	なし
科目の目標 (指導目標)	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
① 知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。					
② 思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を身につけようとしており、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史と文化に対する関心、他国の歴史と文化を尊重することの大切さについて自覚している。					
評 価 方 法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考・判断・表現について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	歴史の扉			○	○	○
	① 歴史と私たち	○日本と洋菓子	○身近な「もの」に注目して、世界の歴史との関連を理解すること			
	② 歴史の特質と資料	○台湾における砂糖の生産	○様々な資料から、どのような歴史を叙述できるかを考えさせ、理解を深める。			
	第Ⅰ部 近代化と私たち	1 結びつく世界	○産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解すること	○	○	○
		2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	○産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命などを取り上げて、多面的・多角的に考察し、歴史的意義を理解し表現すること	○	○	○
		3 明治維新と日本の立憲体制	○産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○
		4 帝国主義の展開とアジア	○帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○
	○近代化と現代的な諸課題	○「自由・制限」および「開発・保全」という2つの視点から、近代化と現代の諸課題について考察し、理解を深め、表現する。	○	○	○	

1 学 期 後 半	第Ⅱ部 国際秩序の変化 や大衆化と私たち	○国際秩序の変化や大衆化への 問い	○1～5よりテーマを選び、諸資料をもとに考察し、その内容を表現する。	○	○	○
		5 第一次世界大戦と大衆社会	○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解すること ○大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解すること	○	○	○
		6 経済危機と第二次世界大戦	○世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動向を理解すること ○第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢の関係などを多面的・多角的に考察し表現すること。	○	○	○
		7 戦後の国際秩序と日本の改革	○第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解すること	○	○	○
		○国際秩序の変化や大衆化と 現代的な諸課題	○「対立・協調」「平等・格差」および「統合・文化」という3つの視点から、近現代の諸課題について考察し、表現する。	○	○	○
2 学 期 前 半	第Ⅲ部 グローバル化と 私たち	○グローバル化への問い	○1～5よりテーマを選び、諸資料をもとに考察して、その内容を表現する。	○	○	○
		8 冷戦と世界経済	○冷戦構造の成立とその展開について、米ソ、東西ヨーロッパの動向を中心に理解し、そのなかでの日本の動向についても考察して、理解を深める。また、アジア・アフリカなどの第三世界にも着目し、冷戦の時代について多面的多角的に考察し、理解を深める。	○	○	○
		9 グローバル化する社会	○アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○
		10 現代の諸課題	○冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散 第2章 地理歴史科の各科目の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○
		○現代的な諸課題の 形成と展望	○歴史総合の学びのまとめとして、現代につながる課題を設定し、資料にもとづいて考察して、その内容を表現する。	○	○	○
留意事項		本科目の履修は2学期前半までの半年間（週4時間）で実施する				

2025年度 地理歴史科 年間授業計画表						
科目名	世界史探究	単位数	2	学年・類型	2年文系・選択	
担当者		使用教科書	詳説世界史(山川出版社)		副教材	ニューステージ 世界史詳覧(浜島書店)
科目の目標 (指導目標)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評 価 方 法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト、単元テスト						
② 思考・判断・表現について・・・定期テスト、単元テスト、レポート等の作成						
③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期 後 半	世界史へのまなざし 諸地域の歴史的特質への問い 第1章 文明の成立と古代文明の特質	1 文明の誕生	①自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、文明誕生の基礎について理解する。 ②おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。	○	○	○
		2 古代オリエント文明とその周辺	①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		3 南アジアの古代文明	①南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。 ②南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ③アーリア人の進入が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		4 中国の古代文明	①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生活などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		5 南北アメリカ文明	①北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア一草原とオアシスの世界	①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○

		2 秦・漢帝国	①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		3 中国の動乱と変容	①遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。 ②魏晉南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。	○	○	○
		4 東アジア文化圏の形成	①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。	○	○	○
3 学 期	第3章 南アジア世界と東 南アジア世界の展 開	1 仏教の成立と 南アジアの統一国家	①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		2 インド古典文化と ヒンドゥー教の定着	①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ②8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。 ③ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		3 東南アジア世界の 形成と展開	①東南アジアの風土について他のアジアや日本と比較したうえで理解する。 ②東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	第4章 西アジアと地中海 周辺の国家形成	1 イラン諸国家の 興亡とイラン文明	①アケメネス朝が広大な領域に中央集権の支配を築くことができた背景や要因を理解している。 ②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ③パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		2 ギリシア人の 都市国家	①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		3 ローマと地中海支配	①ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ②地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ③ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ④「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ⑤ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ローマ帝国の文化的意義を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		4 キリスト教の成立と 発展	①キリスト教の成立の経緯を理解している。 ②ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	第5章 イスラーム教の成 立とヨーロッパ世 界の形成	1 アラブの大征服と イスラーム政権の 成立	①アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。 ②ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ③アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ④イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
留意事項						

2025年度 地歴公民科				年間授業計画表		
科目名	日本史探究	単位数	2	学年・類型	2年文系	
担当者		使用教科書	詳説日本史(山川出版社)		副教材	日本史図録(山川出版社)
科目の目標 (指導目標)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
① 知識・技能	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
② 思考・判断・表現	日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。					
評 価 方 法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考・判断・表現について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期 後 半	1章 日本文化の あけぼの 〈歴史資料と 原始・古代の展望〉	1 文化の始まり	○旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解すること ○自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現すること ○古代中国資料、金石文資料などから、日本の古代国家について考察する。 ○木簡資料について考察するとともに資料保存の重要性について理解する。	○		
		2 農耕社会の成立			○	○
	2章 古墳と大和政権	○古代社会と海外との交流 ○木簡から古代国家を探る	○国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること ○中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現すること	○	○	○
		1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	○貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解すること。 ○地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること	○	○	○
	3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	○貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること。 ○権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○
		1 撰閣政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士		○	○	○
	4章 貴族政治の展開					

3 学 期	5 章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	○貴族政治の変容と武士の政治進出，土地支配の変容などを基に，古代から中世 への時代の転換を理解すること ○権力の主体の変化，東アジアとの関わりなどに着目して，古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること。 ○時代の転換に着目して，中世の特色について多面的・多角的に考察し，時代を 通観する問いを表現すること	○	○	○
	〈歴史資料と 中世の展望〉	○絵画から中世社会を探る	○絵巻物・屏風絵など中世に盛んに描かれた絵画資料をもとに，歴史を考察するとともに，資料の伝来について理解を深める。	○	○	○
	6 章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	○武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解すること ○武家政権の変容，日明貿易の展開と琉球王国の成立，村落や都市の自立，多様な文化の形成や融合などを基に，地域権力の成長，社会の変容と文化の特色を理解すること。 ○公武関係の変化，宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること	○	○	○
	7 章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	○社会や経済の変化とその影響，東アジアの国際情勢の変化とその影響，地域の多様性，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを，根拠を示して表現すること	○	○	○
留意事項		本科目は、歴史総合の履修終了後の2年生2学期後半より開講され、3年生の「日本史探究（4単位）」に接続する。				

2025年度 地歴公民科				年間授業計画表		
科目名	地理総合		単位数	2	学年・類型	2年文系・理系
担当者	使用教科書		新地理総合（帝国書院） 高等地図帳（二宮書店）		副教材	地理総合演習ノート（啓隆社） 詳細地理資料COMPLETE2025(帝国書院) 地理統計Plus-webGIS付き(帝国書院)
科目の目標 (指導目標)	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。					
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養おうとしているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される者としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚している。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、思考力を問う小テスト等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価等						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	第1部 地図でとらえる 現代社会	第1章 地図と地理情報システム 1.地球上の位置と時差 2.地図の役割と種類	◆現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。 ◆日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ◆現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ◆現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現する ◆地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する	○		
		第2章 結びつきを深める現代世界 1.現代世界の国家と領域 2.グローバル化する世界		○	○	○
1学期後半	第2部 国際理解と 国際協力	第1章 生活文化の多様性と 国際理解 1.世界の地形と人々の生活 2.世界の気候と人々の生活 ・モンスーンの影響を受ける地域での生活（東南アジア）	◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ◆世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○		
				○	○	○

2 学 期 前 半	第2部 国際理解と 国際協力	3.世界の言語・宗教 ・イスラーム（中央アジア・西アジア・北アフリカ） ・ヒンドゥー教（インド） 4.歴史的背景 ・移民の歴史（北アメリカ） ・植民地支配の歴史（中東・アフリカ） ・国家体制の変化（ロシア） 5.世界の産業 ・産業力（アメリカ） ・経済成長（東アジア） ・地域統合（ヨーロッパ）	◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。 ◆世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○		
	第2部 国際理解と 国際協力	第2章 地球の課題と国際協力 1.複雑に絡み合う地球の課題 2.地球環境問題 3.資源・エネルギー問題 4.人口問題 5.食糧問題 6.都市・居住問題	◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球の課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球の課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。 ◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球の課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○		
	第3部 持続可能な 地域づくりと 私たち	第1章 自然環境と防災 1.日本の自然環境 2.地震・津波と防災 3.火山災害と防災 4.気象災害と防災 5.自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1.生活圏の調査と地域の展望	◆我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ◆様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ◆地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ◆生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。 ◆生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	○		
留意事項						